

最近、鳥を飼い始める人が増えてきています。飼いやすいイメージもある鳥ですが、

「生殖器疾患」に対しては特に注意が必要です。鳥の手術原因の多くが、生殖器疾患によるものだからです。

生殖器疾患は、雄であれば精巣腫瘍、メスは卵巣腫瘍のほか、卵が卵管などに詰まってしまう卵塞などが代表的な症例です。

手術は難易度が高く、最悪の場合は命を落としてしまうこともあります。このため、生殖器疾患の予防を徹底することが重要です。

生殖器疾患の原因の一つとして、「過発情」が挙げられます。頻繁に発情をしている



120

過発情のコントロール

状態だと、生殖器官は常に働き続けることになり、大きな負担となって病気の原因になると考えられているのです。

過発情を予防するには、発情を適切にコントロールすることが必要です。

例えば、日本で飼われている多くの鳥は気温の高い春から夏にかけて発情するため、冬でも気温の高い室内で飼われている鳥は、発情しやすい環境が長く続きます。

そのため、室温の調節に気を配ることが重要です。ほかにも、暗い時間を連続して確保するようにしたり、人間と

関わりすぎないようにしたり、おもちゃをあまり与えないなど、必要以上に刺激しないことも有効だと考えられています。

発情抑制の方法については、「これをすれば大丈夫」といった明確な基準がないのも事実です。その鳥にあった方法を選択することが大切です。「発情してきたな」と感じたり、いつもと様子が異なったりするときは、まず動物病院へ相談していただくことをお勧めします。

(アニコム損保

獣医師 渡邊賢介)